

絆

K I Z U N A

2022 DECEMBER

JAグループ青森 月刊広報誌 [912号]

12



青森県限定

ひと・まとめプラン

お見積りキャンペーン!



<キャンペーン期間>

[第1期] 令和4年 8月1日(月)~10月31日(月)

[第2期] 令和4年11月1日(火)~12月31日(土)

終身共済 定期生命共済 養老生命共済 こども共済 **メディアル** **がん共済**
 認知症共済 **介護共済** **身近なリスクに** **働くわたしの** **予定利率変動型年金共済**
モテエール **モテエール** **ライフロード**

上記キャンペーン期間中にJAの「ひと分野」^{※1}の共済2種類以上のお見積りを同時にいただいた方^{※2}の中から抽選で

※1 ひと分野とは、終身共済、養老生命共済、定期生命共済、引受緩和型終身共済、一時払終身共済、引受緩和型医療共済、医療共済、がん共済、生活障害共済、特定重篤疾病共済、認知症共済、介護共済、一時払介護共済、年金共済、こども共済です。
 ※2 被共済者が同一の場合に限ります。

青森県下 **合計 1,170** 名様に抽選で素敵な賞品プレゼント!

<p>A賞</p> <p>合計 20 名様 (各期10名様)</p> <p>Panasonic ヘアードライヤー ナノケア EH-NA0G-A</p>	<p>B賞</p> <p>合計 50 名様 (1期30名・2期20名様)</p> <p>LaLuna エアーマスク La Luna EMR0208LA</p>	<p>C賞</p> <p>合計 100 名様 (1期60名・2期40名様)</p> <p>OMRON 体重体組成計 カラダスキャン HBF-912</p>	<p>当選されなかった方に! Wチャンス賞</p> <p>合計 1,000 名様 (1期600名・2期400名様)</p> <p>JA共済オリジナル 卓上カレンダー</p>
--	--	--	--

さらにご成約で **合計 50** 名様に抽選で素敵な賞品プレゼント!

<p>D賞</p> <p>合計 10 名様 (各期5名様)</p> <p>ZOJIRUSHI 自動調理なべ STAN EL-KA23</p>	<p>E賞</p> <p>合計 20 名様 (各期10名様)</p> <p>PRINCESS テーブルグリルピュア 103030</p>	<p>F賞</p> <p>合計 20 名様 (各期10名様)</p> <p>siroca 全自動コーヒーメーカー カフェばこ SC-A371</p>
---	---	---

*画像はイメージです。賞品のデザイン・仕様等は変更となる場合があります。また、商品の生産が中止されたときなど、予告なく賞品を変更する場合があります。

絆 12 目次 CONTENTS

巻頭言	1	経営の窓口	13
フラッシュ	2	組織農政通信	14
インフォメーション	4	すすめ! SDGs	15
東北農政局通信あおもり	11	輝き・誉(ほまれ)	16
実践農業者支援	12	J A人の動き・催事カレンダー	17

持続可能な収益性と将来にわたる健全性 ～早期警戒制度等への対応について～

令和3年12月24日、農協の自己改革の実践（徹底した組合員との対話活動による農業所得向上等）や農協の持続可能な収益性と将来にわたる健全性の確保、早期警戒制度（※金融庁が金融機関の経営状況を監視し、自己資本比率の悪化などがみられた場合に、早い段階で是正措置をとる制度）への対応等の内容を盛り込んだ総合的な監督指針（農水省が農協を監督するにあたっての方針）が改正され、令和4年1月1日に施行された。

農協の持続可能な収益性と将来にわたる健全性の確保については、監督指針に次のように記載されており、将来を予測し早め早めの対応を農協に求めている。

1. 監督指針抜粋

人口減少や高齢化の進展等により経営環境の厳しさが増す中において、組合が組合員の農業所得向上等の取組みを強化するためには、各組合において、持続可能なビジネスモデルを構築し、将来にわたる健全性を確保することが必要である。

たとえ、現状収益が黒字経営で一定の健全性を維持していても、継続的に収益が悪化すれば、将来の財務内容の懸念につながるため、持続可能な収益性・将来にわたる健全性についてモニタリングを行い、早め早めの経営改善を促していく必要がある。

これを促すために、次の取組みが農協において行われているか行政は監督することとなる。

2. 監督するにあたっての行政の着眼点、農協の対応の留意点

- (1) 経営陣は、的確な現状分析に基づき、時間軸を適切に意識し、実現可能性のある経営戦略・計画を策定・実行すること。
- (2) こうした経営戦略・計画の策定・実行に当たって、組合の実情に応じ、例えば、収益性・効率性や健全性等に係る定量的指標（コア事業純益、当期剰余金、自己資本比率等）、管理会計その他の財務・経営分析、リスク管理分析等の経営管理手法を活用しながら、経営戦略・計画の妥当性の検証や見直し等を行うこと。
- (3) また、経営施策の実施状況について、P D C Aサイクルの実践を通じて、目標未達の要因を分析し、これを踏まえた改善対応策を策定・実施すること。
- (4) 理事会は、経営陣による上記の取組みに対して、実効的な規律付けを行うべく、ガバナンスを発揮すること。

これらへの具体的な対応として、

3. 監督指針に対する農協の具体的な対応

- (1) 毎年、5年後までの収支予測（成行シミュレーションの作成）をし、継続的に黒字を確保できるのか、必要な自己資本比率を維持できるのか現状分析すること。
- (2) 現状分析した結果、収支が赤字になる等経営が悪化する見通しであれば、経営改善のための改善策を立案すること。
- (3) それら改善策によって、5年後までの対策後シミュレーションを作成し、改善が見込まれていること。
- (4) また、これら改善策等の実行や農業所得向上等自己改革の実践のためには、経営者のリーダーシップや理事会機能、リスク管理委員会等の役割が発揮されていること 等である。

本会では、これら監督指針の改正に適切に対応するため、研修会、会議等の開催や手引書（「J A ガバナンス・内部統制の確立・実効性強化の手引き」）の活用・周知等を通じてJ A を支援することとしている。

監督指針では、経営が悪化する見通しである場合は、店舗再編や資本増強対策、事業別・事業所別の収益改善等の必要な業務改善を促し、さらに、業務改善を確実に実行させる必要性があれば業務改善命令等を発出する内容となっている。そのため監督指針の改正内容については、慎重に対応する必要がある。

最後に、今後も、新型コロナウイルス感染症の影響やウクライナ危機による資源高の影響、人口減少の進行等農業、農協をめぐる環境は大きく変化すると考えられる。

こうした環境にあっても、組合員との徹底した対話を通じて課題を把握・共有し、農業者の所得向上のための取組みを始めとする一層の自己改革にJ A グループ一丸となって取り組むことが必要である。

フラッシュ



JA青森

女性部が県知事表彰 活動高い評価受け (11/10)

JA青森の青森農協女性部南地域女性部は、2022年度県いきいき男女共同参画社会づくり表彰にて「女性のチャレンジ賞」を受賞した。表彰式は青森県庁で行われ、安田八重子部長が表彰状を受け取った。

同女性部は青森市浪岡地域の女性部で組織し、健全な食と農を次世代に引き継ぐために行っているさまざまな活動が高く評価された。

JAつがるにしきた



女性の意見をJA運営に

意見交換で相互理解深める (11/1)

JAつがるにしきた女性部は、同JA本店で常勤理事・女性理事と女性部本部役員との意見交換会を行った。JAに対して日頃感じている意見や要望を共有することで相互理解を深め、両組織の一層の活性化を目指すのが目的。

女性部からは、8月の記録的大雨による農産物の被害状況、移動金融店舗の営業時間、肥料は何%高騰するのかなど、意見や要望が出された。

JAごしょつがる



常勤理事が園地巡回 生産者の悩み直に (11/9)

JAごしょつがるは、今後の取組みや課題への対策を検討するため、生産者との直接的な対話を重視し、「出向く体制」の強化を図っている。

11月に入り同JA管内では「ふじ」が主体のリンゴ晩生種の収穫が最盛期を迎え、同JAの野呂重正常務は、指導課の宮崎浩美課長と園地巡回を重ね、生産者が苦勞している部分や、今後の作業量の話聞き、状況の把握に努めた。



JA相馬村

JAつがる弘前



賑わう収穫感謝祭 今年もりんご直売所オープン (11/19)

JAつがる弘前は、農産物直売所「グリーンハウスかあさんの店」で「収穫感謝祭」を行った。同JAオリジナル商品や直売所の会員が育てた野菜、手作りのゴマおこわなどを特別価格で販売した。

同日、同直売所駐車場に令和4年産リンゴを販売する「りんご直売所」もオープン。贈答用のリンゴを買い求める客で賑わった。同直売所は12月末までの設置を予定。

JAL援農活動 (10/21)

JA相馬村管内などのリンゴ園地でJAL運行乗務員が10月中の6日間、援農活動を行った。

弘前市紙漣沢の園地で援農活動を行ったJALの小山浩司副操縦士は、同活動の発起人。同活動はJAL社内、持続可能な開発目標(SDGs)の11「住み続けられるまちづくりを」、15「陸の豊かさを守ろう」として、積極的に進められている。

JA津軽みらい



3年ぶりのジャンボおにぎり完成 (11/20)

JA津軽みらいは、藤崎町の「第10回ふじさき秋まつり」で恒例のジャンボおにぎりづくりを行った。

同JA常盤基幹支店管内のときわ良質米生産部会が生産した特A米「青天の霹靂」5俵分(約300kg)を使用した。ジャンボおにぎりの作成は同部会員ら13人が行い、完成したおにぎりの高さは約2m。事前に準備したおにぎり2500パックが無料で来場者に振る舞われた。

JA十和田おいらせ



ゴボウシーズン到来 豪雨乗り越え収穫 (11/21)

JA十和田おいらせ管内で、ゴボウの収穫と共選作業が本格化している。

10月から3月の秋冬シーズン出荷量は、年間量の8割に当たる約2700tを見込む。寒さが厳しくなり鍋物シーズンを迎え、高品質と良食味をアピールし、有利販売につなげる。2022年は年間取扱高5億3500万円を見込む。

JA八戸



キッズあぐり塾 大きなサツマイモ収穫 (11/5)

JA八戸は、八戸市農業経営振興センターで、今年度3回目のキッズあぐり塾を開き、八戸市在住の小学生14人が参加した。

三八地域の農業について理解を深め、次世代に向けて活動を行うため、八戸市と連携してキッズあぐり塾を5月から開催。5月に定植した黄金千貫、紅あずまなど4品種のサツマイモやピーマン、ナガイモを収穫した。

JAゆうき青森



ナガイモ収穫最盛期 (11/18)

JAゆうき青森の主力野菜の一つ、ナガイモの収穫が最盛期を迎え、同JAのながいも洗浄選別・貯蔵施設で令和4年産の秋掘ナガイモの選果が開始し、同JAの荷捌き場に生産者らがコンテナいっぱいに入ったナガイモを続々と運び込んでいる。

管内のナガイモの生産状況は、概ね平年・前年並みの肥大となっているものの、形状は細長いナガイモが多い。

JAおいらせ



小学生がナガイモの手掘りに挑戦「長芋うめじゃ体験」(11/20)
星野リゾート青森屋は、三沢市立上久保小学校の4、6年生とその家族5組を対象に、シャベルを使ってナガイモの手掘りに挑戦する「長芋うめじゃ体験」を行った。
JAおいらせの組合員が三沢市のほ場を提供し、同JA指導課職員がサポートした。「長芋うめじゃ体験」は青森屋が11月中、宿泊者向けに行った体験プログラム。

JA青森中央会に8月豪雨災害見舞金

11月17日JAグループ山形を代表しJA山形中央会の折原敬一会長が、11月22日JAグループ福島を代表しJA福島中央会の管野啓二会長が青森市を訪れ、JA青森中央会の雪田徹会長に、JAグループ青森への豪雨災害見舞金を贈呈した。

折原会長は「1日も早い復興を願っています」と述べ、管野会長は「心からお見舞い申し上げます。JAグループ同士助け合って行きましょう」と述べた。

雪田会長は「被災した組合員のため有効に活用させていただきます」と述べた。

青森県の農業関係被害額は農作物や農業関連施設などで約155億円以上となっており、ナガイモなどの地下作物の全容が把握できていないため、さらに被害が膨らむ可能性がある。



▲見舞金を渡す折原会長（右）と受け取る雪田会長



▲見舞金を渡す管野会長（中）と受け取る雪田会長（左）と大場副会長

県選出国會議員に対し県農協青年部協議会が要請

県農協青年部協議会の成田啓輔委員長は11月2日、県選出国會議員7人に対し、持続可能な農業の実現に向けた要請を行った。

要請内容は、①飼料用米等の要件見直し、②野菜価格安定対策事業と収入保険の同時利用の永続化ならびに対象拡大、③肥料価格高騰対策事業の春肥以降の継続についてなど5項目。10月31日、11月1日に開いたJA全青協の会議で議論し作成した要請書の他、県独自に8月の大雨災害対策や配合飼料価格高騰対策などを口頭で要請し、営農継続に不安を覚える青年部員の切実な声を直接届けた。

成田委員長の要請に対し、滝沢求参議院議員は



▲滝沢議員（中）に要請する成田委員長（左）



▲田名部議員（中）に要請する成田委員長（左）

「現在国会でも議論している内容であり、タイムリーだ。みなさんの思いを代弁していく」とし、田名部匡代参議院議員は「農業は重要な局面に差し掛かっている。国の責任において農業を守る必要がある」と述べた。

くらしの活動の活性化へ 生活指導員研修

県農協生活指導員連絡協議会は10月28日、西目屋村で視察研修を行った。県内7JAから11人の生活指導員が参加し、ブナコ株式会社西目屋工場と道の駅津軽白神ビーチにしめやを訪ねた。

ブナコ株式会社西目屋工場では、工場見学と製作体験を行い、青森県の豊富なブナ資源を有効活用するために生まれた木工用品「BUNACO」について学んだ。

道の駅津軽白神ビーチにしめやを会場に行った研修会では、JAにおける「くらしの活動」について、これまでの活動の振り返りや、現状抱える課題などを共有し、今後の活動に向け理解を深めた。

生活指導員は、今回の研修内容を各JA女性部活動などに活かし、組織活動の活性化につなげていく。



▲BUNACO製作をする生活指導員



「乃木坂46と国消国産を学ぼう！」キャンペーン

「国消国産」の考え方や、食・農業の現状に対する理解醸成を目的に、クイズに正解すると国産の農畜産物にあたる「乃木坂46と国消国産を学ぼう！」キャンペーンを、令和5年2月10日まで実施する。

特設ウェブサイトに掲載しているクイズに正解すると、国産の農畜産物（5品目・各約3,000円分）が合計500名にあたる。また、クイズに全問正解すると、乃木坂46の特典画像を見ることができる。

①期間：令和4年12月1日（木）10：00～
12月31日（土）23：59

A賞 野菜（国産野菜詰め合わせ） 100名
B賞 お肉（国産和牛（すき焼き用）） 100名

②期間：令和5年1月10日（火）10：00～
2月10日（金）23：59

A賞 お花（国産ガーベラ） 100名
B賞 牛乳（国産乳製品の詰め合わせ） 100名
C賞 お茶（国産お茶葉） 100名

③特設ウェブサイト

[www.asahi.com/ads/
nogizaka46ja/](http://www.asahi.com/ads/nogizaka46ja/)



行事（12/10～1/10）

12月

- 11日 第41回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式（ホテル青森）
- 12日 定例理事会（県農協会館）
- 12日 令和5年度中央会予算編成および組合賦課金にかかる組合長会議（県農協会館）
- 14～16日 県JA協議会農業視察研修（高知県、愛媛県）
- 16日 次世代リーダー育成研修会・修了レポート発表会（県農協会館）

林修先生と学ぶ「国消国産」講座

変化する世界の食料事情。
今、大切な日本の食を未来へ。

「国消国産」 を考えよう。

JAグループサポーター
林修

今、
世界
では

異常気象、コロナ禍、
世界情勢の不安が、
食料価格を押し上げている

国際市場では今、食料価格の高騰が続いています。国連食糧農業機関(FAO)によると、「食料価格指数」は、11年ぶりに高値を更新しました。小麦、大豆、乳製品、植物油など、身近な食料が値上がりしているのです。異常気象による農作物の不作に加えて、コロナ禍で国際的な人の移動が制限された結果、農業生産や加工、輸送などに携わる労働者不足から、食品の生産や物流が停滞していることが原因です。

そこに国際情勢の緊張が加わり、価格高騰に拍車がかかりました。ウクライナやロシアは世界有数の穀倉地帯です。これらの輸出が減少すれば、国際的な価格上昇は避けられません。日本は小麦の約9割を輸入に頼っており、私たちの食卓にも影響が及びます。さらに、肥料や、バイオ燃料の原料となる大豆などの価格上昇も、食料価格の高騰に影響を与えています。



今、
日本
では

食品の高騰により、
私たちの食卓に不安が広がっている

日本では、輸入小麦は政府から民間へ売り渡されますが、2022年4~9月の売り渡し価格を、17.3%引き上げました。これは、過去2番目の高さです(農林水産省は、これによる小売価格の値上げ幅を、家庭用薄力粉は1キロ当たり12.1円、食パンは1斤当たり2.6円と試算しています)。小麦粉は多様な食品に使われており、外食や、総菜・弁当など中食の価格にも影響を及ぼし、食卓を直撃することになります。気候変動、コロナ禍、紛争に直面する中で、食料を海外に頼ることのリスクが、ますます明らかになったのです。



今、
私たちに
できること

国民が必要とし消費する食料は、
できるだけその国で生産する、
「国消国産」をすすめていくこと

私たちが教訓として学んだことは、食料の安定供給、食料安全保障の重要さです。今、日本の食料自給率はカロリーベースで37%。このまま多くの食料を輸入に頼っていて大丈夫なのでしょうか。そこで、国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産するという「国消国産」をすすめていくことが重要になります。それは、国内の食を生み出す日本の農業を、食卓を未来につなぐ行動です。今こそ、それを実践することが求められると言えるでしょう。



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

今年もやります！ JAバンクローン青森県産品応援キャンペーン

JAバンク青森では、2022年12月1日から「JAバンクローン青森県産品応援キャンペーン」を実施している。期間は2023年4月28日まで。

このキャンペーンは、期間中にJAマイカーローン・JA教育ローン・JA多目的ローン・JAフリーローンのいずれかを新規でご契約された方全員に青森県産農産物をプレゼントするもので、A～Dの4つのコースの中から好きな商品を選ぶことができる。



JAバンクローンの主な使いみちは次のとおり。

JAマイカーローン

- ▶自動車・バイク・除雪機（いずれも中古含む）の購入資金
- ▶他金融機関・信販会社等からの借換資金（残価設定型クレジット含む）

JA教育ローン

- ▶就学されるご子弟またはご本人の教育に関する全ての費用
- ▶他金融機関・信販会社等からの借換資金と借換えに伴う諸費用

JA多目的ローン・JAフリーローン

- ▶家電・家具購入や冠婚葬祭など、使いみちは自由
※ただし、JA多目的ローンは資金使途証明が必要です。
- ▶他金融機関・信販会社等からの借換資金と借換えに伴う諸費用（ただし、負債整理は除く）

ご利用は、JA窓口へのご来店以外にもインターネットを使って「JAネットローン」から24時間365日いつでも簡単に申込みができる。

キャンペーンの詳細や各JAが取扱うローン商品に関するお問い合わせは、最寄りのJA窓口まで。

第13回大農林水産祭にJAバンクPRブースを出店

農林中央金庫青森支店は、11月12、13日に青森産業会館で開催された「第13回津軽海峡交流圏大農林水産祭」に、JA青森の協力を得てJAバンクPRブースを出店した。

コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となった今回は、JAバンクご利用者への感謝とJAバンクアプリの利用者拡大をテーマに、よりぞうグッズがもれなく当たるスピードくじを実施。JAバンクアプリをご利用中のお客様やその場でJAバンクアプリをインストールしたお客様が抽選を楽しんだ。長引くコロナ禍の影響で、来場者数は両日も例年を下回ったが、その場でJAバンクアプリをインストールいただいたお客様は、年齢も幅広く、人数も当初の予想を上回った。

また、今回初めて参加したよりぞうは、スタッフと一緒に、来場者へチラシやポケットティッシュなどを配布しJAバンクのご利用を呼びかけたほか、子供達と遊んだり記念撮影に応じたりして来場者を喜ばせた。



▲来場者でにぎわうJAバンクブース

行事 (12/10～1/10)

農林中央金庫

12月

15～16日 JAバンク青森アカデミー第7期「管理職コース第3部」(アップルパレス青森)

19日 JAバンク青森運営協議会専門委員会 (ウェブ会議)

新品種「はれわたり」精米・袋詰め作業開始

令和4年産より青森県内で先行販売される期待の新品種「はれわたり」。10月29日から販売開始となった。

販売開始に向けて、JA全農あおもりパールライスセンターでは23日から精米を、翌日24日から袋詰めを開始した。24、25の2日間で、初回納入分として約2万5千袋（1袋2キロ）を袋詰め。原料は全て県内JAから仕入れたものだ。

袋詰め2日目となる25日、この日は「新米」のシール貼りや運搬など、作業員5人体制で出荷に向けた作業にあたった。26日から県内スーパーへ順次出荷となり、29日に店頭に並んだ。

全農あおもりパールライス販売課の村田武志課長は「県民の皆さんに早く食べてもらい、新品種の味を知って欲しい。美味しい状態で届けるために、精米や運搬作業を丁寧に行っていきたい」と話した。



▲新米のシールを貼る作業員

青森米販売対策会議

JA全農あおもりは10月26日、青森市のホテル青森で青森米販売対策会議を開き、県外の米穀卸売業者や県内JA、青森県から代表者らが出席。令和4年産米の取組みや作柄状況を共有するとともに、対策について協議した。

集荷について、作柄や、水田活用米穀および飼料用米・備蓄米への取組みにより、前年産米を約8千5百トン下回る8万1000トン（前年比91%）と見込んだ。

また、販売について、コロナ禍の長期化により中食・外食産業の需要減少に拍車がかかり業務用を中心に需給緩和状況が続いている中、令和5年3月までに全量契約締結することや、同時期までに全体の35%にあたる2万8130トン販売する目

標を掲げた。早期契約および計画的な販売、取引先と連携したキャンペーンの展開による販売促進で環境を整え、5年産米の集荷・販売へ円滑に移行できるよう取り組みを進めていく。

全農あおもりの雪田徹運営委員長は「生産者が安心して栽培できるよう、引続き事前契約や契約栽培を柱とした安定的な取引をお願いしたい」と卸売業者に対し協力を求めた。

4年産米の品質概況は1等90%（前年同、10月21日現在）。銘柄別に、青天の霹靂97%、つがる口マン89%、まっしぐら90%。また県は、県全体の10アールあたりの予想収穫量は595キロ、作況指数は「99」の「平年並み」と報告した。



▲4年産米の販売について卸売業者に対し協力を求める雪田会長

高圧ガス第二種販売主任者試験対策講習会

JA全農あおもりは10月26日、青森市の県農協会館で高圧ガス第二種販売主任者試験対策講習会を開き、県内JAからLPガス業務に携わる担当者らが参加した。この講習会は、11月13日に開催された同試験の合格を支援するために開いたもの。

参加者は、高圧ガス保安法および液化石油ガス保安法を対象とする法令科目と、保安管理技術科目について、過去に出題された試験問題を中心に学んだ。

全農あおもり営農購買部の三浦強次長は「合格率が低く難しい試験ではあるが、有資格者確保に向けて頑張ってもらいたい」と話した。

ガス販売所には顧客の保安確保の役割を担う業務主任者1名およびその代理者1名の選任が最低でも必要で、それには有資格者であることが選任要件の一つになっている。また、有資格者が法定

人数を満たさない場合は事業停止となる。有資格者の確保は、事業運営上、JAの共通課題となっている。



▲法令について学ぶ参加者

牛乳ごっくんキャンペーン第1弾プレゼント抽選会

JA全農あおもりと青森県牛乳普及協会は10月31日、青森市の県農協会館で、8月25日から10月20日まで展開した令和4年度第1回目となる「牛



▲抽選する担当者ら

乳ごっくんキャンペーン第1弾」のプレゼント抽選会を開いた。合計13378件の応募の中から、当選者180人を決定した。

応募件数は過去最高であった（昨年度平均3683件）。

当選者には賞品として、あおもり和牛肩ロースすき焼き用を50名様、乳製品詰合せを100名様、などを合計180人にプレゼントした。

クイズに答えてあおもり和牛 or 乳製品詰合せをGETしよう！キャンペーン実施中



詳細はこちら

行事 (12/10～1/10)

12月
12日 運営委員会（県農協会館）

毎月放送！「Fresh Vegetable」

10月21日放送

JA津軽みらい「にんじん」



放送内容はこちら



11月4日放送

JAおいらせ「ごぼう」



放送内容はこちら



11月18日放送

JA八戸「山の芋」



放送内容はこちら



今後の放送スケジュール 夕方6時56分から！

・12月16日 JA津軽みらい「アルストロメリア」 ・12月23日 JAゆうき青森「黒にんにく」

JA共済ヘルスアップ講座の開催

JA共済連青森は11月16日、五所川原市プラザマリユウ五所川原でJA共済ヘルスアップ講座を開催した。

この講座は、平成30年度から地域貢献活動（健康管理・増進活動）の一環として実施しており、健康に関する講演およびヘルスチェックを通じて、健康維持、管理に対する意識の高揚を図り、併せて、笑いが健康に与える効果に着目し、笑いと健康に関するイベントを実施することで健康づくりに寄与することを目的としている。

今回は、今年度第1回目の開催となり、組合員とその家族および地域住民を対象に総勢約150人が参加した。

講座では、JA共済がJA女性組織の健康づくりのために開発した「JA共済レインボー体操」を楽しく体験し、その後、弘前大学大学院医学研究科社会医学講座特任教授の中路重之氏による「短命県返上活動とメタボリックシンドローム」と題した講演とヘルスチェックが行われた。

昼には青森県産食材をふんだんに使用した彩り豊かな「JA健康寿命100歳弁当」を提供した。



▲中路重之氏（弘前大学大学院医学研究科社会医学講座特任教授）による講演の様子



▲JA共済レインボー体操を行う様子

午後は、日本整形外科学会理事・青森県立中央病院整形外科統括部長の伊藤淳二氏による「骨の健康診断～ロコモ・骨粗鬆症と認知症について～」と題した講演とヘルスチェックが行われた。講演終了後にはテレビでお馴染みのお笑い芸人おぼん・こぼんの漫才により参加者全員の笑顔で会場が溢れていた。

令和4年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール入賞作品展示会の開催

JA共済連青森は、11月12・13日、青森市青森産業会館（ロビー）、19・20日、弘前市さくら野百貨店（4階エスカレーター前ホール）、26・27日、おいらせ町イオンモール下田（1階パセリー菜横広場）で「令和4年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール入賞作品展示会」を開催した。

展示会では、書道半紙・条幅の部、交通安全ポスターの部の中から選ばれた「最優秀賞」、「特選」、「準特選」の81作品が展示され6日間で1,800人以上の来場者が会場を訪れた。

来場者は「小・中学生が書いたとは思えないほど上手だ」、「来年は賞を取れるように頑張りたい」等たくさんの声を聞くことができた。



▲展示会の様子（青森産業会館）

行事（12/10～1/10）

12月

- 12日 運営委員会（県農協会館）
- 13日 共済担当部課長会議（県農協会館）
- 14日 JA共済ヘルスアップ講座（ホテルニューキャッスル弘前）

資源である稲わらの有効活用に向けて！

日本では、年間約 95万トンの稲わらが飼料用として肥育牛等に給与されていますが、国産は約 72万トン(76%)で、残りは海外(中国)から輸入されています。

水稻を収穫した後の稲わらの9割は、有効活用されずにすき込みや焼却などされるものが多くある一方で、牛を肥育している農家からは、国産の飼料用稲わらを求める声が日に日に高まっています。

そのため、農林水産省では、

- 1 国産稲わらを求めている畜産農家(青森県内2件)
- 2 稲わら販売者(青森県内 10 件)
- 3 稲わら収集可能者

の情報を集めて、ホームページに専用ページを開設し、稲わらの収集→販売→利用の橋渡しを行っています。

また、稲わらの有効活用を検討されている方々向けに、国産稲わらの収集や販売の成功事例を掲載しているほか、収集及び販売の際の注意点なども掲載しております。

詳しくは農林水産省のホームページをご覧ください。

【農林水産省ホームページ】

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/inawara.html

○稲わらの自給率 (R2年産)



(資料)
飼料用国産稲わらは農林水産省飼料課調べ
輸入量は財務省「貿易統計」
(10月～翌年9月までの合計)



【青森県内での取組】

五所川原市では、野焼き対策の一環として、令和3年度から「食料生産地から環境汚染を出さない」をスローガンに独自に「稲わら有効 Win-Win モデル事業」を展開しています。

市内モデル地域において、市が購入したロールバレーを農業者に貸し出し、稲わらの収集から保管、販売までを網羅した五所川原市産稲わらの有効利用の実証が取り組まれています。



市が購入したミニロールバレー(五所川原市提供)



収集された稲わらミニロール

稲わらは有益な資源です。有効活用にご協力をお願いします。

実践 農業者支援

労働力不足解決に向けた「関係人口の創出」 ～アグリーンシップによる取り組み～

農業における労働力不足は生産者の高齢化とともに深刻化している。こうした課題への足掛かりとして、ＪＡ青森中央会とＪＡＬが共同で農作業体験の実施による「関係人口の創出」に取り組んでいる。

今回は、都市部の大学生が都市部と地域を定期的に行き来し、りんごの収穫体験を行うアグリーンシップについて紹介する。

※関係人口…移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと（総務省ホームページより）

1. アグリーンシップの事業概要

アグリーンシップは日本一のりんご生産量を誇る青森県を対象に、学生が収穫等の作業を複数回体験することで都市と地域を定期的に行き来する仕組みを創出する事業である。

ＪＡＬが企画コーディネートとＳＮＳによるプロモーション活動を行い、連携団体であるTABIPPO学生支部はメンバーの選出とプロモーション素材の提供、ＪＡは受け入れ農家の調整等を行う。定期的な地域への訪問とプロモーション活動により「関係人口の創出」と労働力不足や地域産物のプロモーションといった「地域の課題解決」の達成を目的としている。

ＪＡＬによるプロモーション活動としては、作業の様子等をＳＮＳに投稿し青森県や農業、本県農産物の魅力に関する情報発信を行うとともに、抽選で地域産物をプレゼントする内容になっている。こうした取り組みにより、若年層をターゲットにした認知度向上を図る。

今年度の実施日程は、2泊3日の日程を計3回実施した。1日目は農作業体験前にＪＡ職員からりんごの生態について講義を受けた後に、園地に出向き農作業体験を開始した。2日目から3日目の午前まで農作業と意見交換を行った後、午後からＪＡの加工場見学を実施した。

2. 事業効果と課題

当事業の主な効果として、次のことがあげられる。

農家への効果	・一時的な労働力の確保 ・情報発信による本県農業の魅力・認知度の向上 ・農家の現状と課題への理解醸成（支援する動機になる） ・地域農産物の積極的選択による消費拡大
学生への効果	・普段触れることのないりんごの作業ができる（価値ある経験が可能） ・地域住民との関係構築、有名観光地以外への訪問機会を得られる
その他効果	・地域店舗利用・情報発信による地域への経済効果

このように農家と学生の双方に利点が生じる事業である一方、課題も存在する。

主な課題として、①地域への訪問を継続化する仕組みづくり、②情報発信力の強化、③学生が負担する費用があげられる。特に①については、一時的な作業体験ではなく継続的に農家と交流を持ち、地域との深い関係を築くことで、訪問した地域が「第3のふるさと」となるよう事業内容を改善していかなければならない。

3. まとめ

農業労働力不足は長年問題視されてきたが、課題の解決には長期的視点での労働力確保と、これまで農業に関連のない人を取込むといった労働力の新規開拓を行うことが必須である。今後は、アグリーンシップによる若年層での「関係人口の創出」を労働力不足の根本的解決の1つのアイテムとして取り組みを図ってまいりたい。

（中央会 農業対策部）

経営の窓口

◆JAガバナンス・内部統制の確立に向けた取り組みについて ～令和5年度からモニタリング開始～

1. はじめに

これまで、早期警戒制度を踏まえたリスク情報戦略への対応について説明してきたが、本県として今年度中に具体的な取り組み内容（リスク）を洗い出し、令和5年度からモニタリングを開始することを目標に進めることから、今回は具体的な取り組み方法について説明したい。

2. 総合的な監督指針におけるリスク管理の主な着眼点

同指針においては、リスク管理を行ううえで理事会に求められる主な機能を次のように規定している。

- (1) 戦略目標を踏まえたリスク管理の方針を明確に定め、組織内に周知しているか。また、理事会はリスク管理の方針を定期的又は必要に応じ随時見直しているか。
- (2) 定期的なリスクの状況の報告を受け、必要な意思決定を行うなど、把握したリスク情報を業務の執行、管理体制の整備等に活用しているか。

このように、適切な経営判断を可能とするために、JAを取り巻く重要なリスクを理事会でモニタリングすることの重要性を訴えている。

3. 求められる2つのガバナンス

理事会でリスク管理を行う方法としては、2つのガバナンス機能をモニタリングすることがあげられる。

(1) 守りのガバナンス

各事業において財務リスク、オペレーショナルリスクを洗い出し、その中でも経営に大きな影響を与えるリスクについて、定期的に理事会に報告され対策を講じなければならない。なお、同ガバナンスは、内部統制システム基本方針においても重要な取り組みとして位置づけられていることを再認識しなければならない。

(2) 攻めのガバナンス

持続可能な収益性・将来にわたる健全性確保に向けたビジネスモデル・経営戦略のうち重要な項目について、定期的に理事会に報告され適宜見直しを行わなければならない。具体的には、中期計画、単年度計画における重要な数値目標の進捗管理を理事会で行うことである。

4. 運用に向けての準備

(1) 守りのガバナンス

リスクカテゴリーごとに検出されるリスクを部署ごとに洗い出す作業から始める必要がある。

一般的な検出リスクについては本会から提供することとなるが、それ以外にJA独自のリスクも存在する可能性があることから、部署ごとに協議が必要になると思われる。

(2) 攻めのガバナンス

令和3年度の業務報告書から、自己改革工程表を作成し開示している。その中で経営基盤強化対策として掲げている項目があるが、それが持続可能な収益性・将来にわたる健全性確保に向けたビジネスモデルへの取組みとなる。よって、自己改革工程表に記載の項目のみならず、攻めのガバナンスとして重要と判断した項目を洗い出す必要がある。

5. さいごに

令和5年度から2つのガバナンスのモニタリングを開始するためには、職員への周知はもちろんのこと、理事会へ提案する常勤役員の理解が最も重要になると思われる。本会としては、各階層への周知および業務作業への取組みを支援していきたい。

(中央会 経営対策部)

組織農政通信

～3年ぶりの開催～ 第13回津軽海峡交流圏「大農林水産祭」

J A青森中央会などの構成団体からなる津軽海峡交流圏「大農林水産祭」実行委員会が主催する第13回津軽海峡交流圏「大農林水産祭」が11月12日（土）、13（日）の2日間で開催された。このイベントは「青森の食の魅力」を県内外に発信するため、青森県の豊かな農林水産物や加工品、ご当地グルメなど、さらに南北海道からの出店商品を紹介、販売するイベント。2020年と2021年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となっていたが、来場者の導線管理検温、イベント会場内での試食提供、飲食サービス・抽選会の中止など、感染症対策を徹底し3年ぶりに開催された。新型コロナウイルス感染症の影響の他、密を避けるべく事前告知を縮小したこともあり、2日間で7,880人と過去の来場者と比べると少なかったが、大きなトラブルもなく来場者はお目当ての品を購入したり、各ブースイベントに参加したり楽しんでいった。



▲テープカットをする雪田会長ら

イベント初日の11月12日（土）には開会セレモニーが開催され、青森県知事、青森市長から祝辞が寄せられたほか、J A青森中央会雪田会長らによるテープカットが行われた。

イベント会場では延べ64店のブースが設けられ、北海道ジンギスカンや十三湖のシジミなど青森県内産や北海道産の様々な品が並べられた。J Aグループからも「J Aふるさと市」として多数の出店が行われ、「各J A・J A青年部・J A女性部」などが、リンゴやゼネラル・レクラーク、ナガイモやニンニクなど、旬の農産物の販売を行った。「県女性組織協議会」からは「青森米と旬の青森農作物の2色ゼリー」などの料理レシピの紹介や、女性部活動のPRを行った。また、J Aバンク青森はJ Aバンクアプリの推進を行い、J A共済連青森は、交通安全意識を高めてもらおうと、交通安全危険予測シミュレータ（自転車編・歩行者編）を設置し、来場者に交通事故の未然防止の呼びかけと共済事業に関わる広報活動を行った。



▲大農林水産祭の会場の様子

J A青森中央会では、県内のJ Aを身近に感じてもらうと、3歳～小学生くらいまでを対象とし、県内10J Aの加工品などが当たる抽選会と、J Aグループが進めている「国消国産」をPRするため、乃木坂46「クリアファイルと学習帖」を配布すると同時に「国消国産」の普及状況を確認するためのアンケート調査を実施した。アンケートは169人に回答をいただき、うち約49.1%が「国消国産」を認知していると分かり、主に「テレビ」を通じて認識した方が多かった。

3年ぶりに開催された「大農林水産祭」は、新型コロナウイルス感染症の流行前と比べると、様々な面で縮小された開催となったが、コロナ禍でのイベント開催はまだまだ手探りの点が多く改善の余地が多くあったと感じる。しかし「青森の食の魅力」をもっと県内外に発信するためにも、津軽海峡交流圏「大農林水産祭」実行委員会と今後も協力し、次年度以降もイベントが開催できるよう、また更に大きなイベントへと成長できるようJ Aグループとして取り組んでいければと思う。



▲中央会ブースの様子

（中央会 農業対策部）



農福連携に協力 農家と障害者橋渡し



作業する福祉施設利用者ら

利用者2～3人と施設指導員1人の班構成で延べ37人が、刈った雑草を集める作業やリンゴの葉取り作業を行った。作業を受け入れた農家の1人は「障害者雇用は初めて受け入れた。今後農福連携に関する窓口がどの機関なのか分かりやすくなれば普及すると思う」と期待を込めた。

無料職業紹介所が設置されている同JA農業振興課農業振興係の阿保周吾係長は「今後も県と協力し農福連携の取り組みを広げていきたい」と話した。

JAつがる弘前無料職業紹介所は、青森県における農福連携の一環で、障害者が農作業に従事する「チャレンジ農福」の取り組みに協力した。

中南地域県民局農林水産部農業普及振興室が、同JAに福祉事業所を紹介。同JAが求人登録をしている組合員に聞き取りし、その中で障害者雇用の希望がある農家とのマッチングを行った。障害者就労の拡大と農業労働力確保を目指すことで、持続可能な開発目標(SDGs)の8「働きがいも経済成長も」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながる。

同JA管内で8月29日～31日、9月27～29日、10月11～12日の計8日間、福祉施設

リンゴ体験学習 一連の作業同じ木で



リンゴ体験学習を通して交流する田澤部長(左)と児童

こと②JA女性部とJA営農指導員が協力すること、の改善策を取り入れ2012年から再度実施されている。

同校教諭は「地域の皆さんのサポートのおかげで実施できる授業」と感謝を伝え、同JA女性部の田澤真由美部長は「体験学習を通じて子どもたちが地域の魅力を知り、郷土愛に満ちた大人に成長してほしいと考えており、今後も継続して取り組みたい」と話した。

JA相馬村は、管内の弘前市立相馬小学校3年生のリンゴ体験学習に協力している。

農や食への理解を育む目的で、地域の連携のもと実施される授業は、持続可能な開発目標(SDGs)の4「質の高い教育をみんなに」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながっている。

同体験学習は、児童が同じ園主の畑に通い、授粉や収穫など計6種類の作業を同じ木に対して行うもので、かつて市町村合併前の旧相馬村時代にも実施されていたが、学校と保護者の負担が大きく、一時衰退していた。

しかし小学校一帯をリンゴ畑が囲む立地や、保護者に農家が多いことから復活させるため①1年ごとに園主を持ち回りで交代する



輝き

J A全農あおもり
営農購買部 営農対策課
と き れい か
土岐 鈴夏 さん

●プロフィール
2020年4月から勤務 弘前市出身 25歳

— 働くきっかけは？

大学で農業について学んでいたので、農業に関する職に就きたいと思っていました。大学ではJ Aについて学ぶ講義が多くあり、学科の先輩もJ Aグループに就職する人が多くいました。

— 業務内容を教えてください。

土壌に含まれる養分量やpHなどを分析し、その結果をもとに処方箋を作成しています。

— 働いた感想は？

入会1～2年目はりんご課に配属され、初めての業務がりんごの品質調査でした。入会前に想像していた業務内容とかなり違っていたので、自分で大丈夫かなあという気持ちがありました。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？

優先順位を決めて取り組むようにしています。土壌分析中は土壌サンプルの準備・分析・片付けなど、それぞれにかかる時間を考慮しながら作業しています。

— 特技・趣味は？

最近は絵本作家のヨシタケシンスケさんの作品をみるのが好きで、インスタグラムに投稿されるスケッチを毎日チェックしています。

— あなたが自慢できることは？

自慢になるかはわかりませんが、自分の名前の読み方です。「れいか」という名前の人は同級生などに何人かいますが、「鈴夏」と書いて「れいか」と読む人にはまだ会ったことがないのがちょっとした自慢です。

— 将来の夢は？

どんな時でもご飯がおいしいと思える人生を送りたいです。



人参オペレーターとして
収穫する木村さん

木村透さん(45)は、三沢市でナガイモ、ゴボウ、ニンジン、水稻を栽培している。31歳の時に家業を継いで就農した。

J Aおいらせ青年部三沢地区、J Aラジヘリ協議会、J A人参(にんじん)オペレーター協議会に所属しさまざまな面で地域を支えている。

木村さんは夫婦2人で農業を営み、繁忙期はアルバイトを雇い作業をしているが、年々労働力の確保は難しくなっている。

「家族だけで行う農業は限界がある。今は元気な親世代も10年、20年先は仕事ができるわけではない。複数の農家がみんなで作業をした方が効率が良い」と、いずれは新しい体制を整えなければならないと木村さんは考える。

今後は作業効率アップと作業員の負担軽減のために、ナガイモの植え付け間隔を狭めて面積当たりの収量を増やすことや、今は作付けしていないニンニクの生産にも取り組みたいと意欲的に計画している。

Information

JAグループは乃木坂46の協力を得て、国消国産※の理解醸成に取り組んでいます！特設サイトでは、国内農業の魅力や課題などについて、各メンバーと楽しく学べるクイズコンテンツや各種動画コンテンツ等を展開しています。

※国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産するという考え方のこと。

▼特設サイト



JA人の動き

○JA青森中央会（令和4年11月8日付）

副会長理事

大場 勉（新）

催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
12月28日 9時～13時	JA全農あおもり	第17回農林水産物 歳末市	県農協会館 1階ロビー	広報宣伝総合課	017-729-8637	

後編 記集

旧暦12月を「師走」「師馳」（しわす・しはす）または「極月」（きわまりづき・ごくげつ・ごくづき）と呼び、「師走」「極月」は、新暦の別名としても用いられる。

英語の月名 December は、「10番目の月」で、ラテン語で「第10の」の decem に由来。

12月といえばクリスマス。イエス・キリストの誕生を祝う日で、クリスマス・イヴは、「前夜」という意味でなく「evening」（夕方）という意味で、24日の夜のことを指すそうです。

年越しそばを食べる理由は、細く長く健康長寿を願うため。関西ではそばではなく、運を呼ぶた

め長く太く願うという意味から、うどんを食べます。

以上、12月についての豆知識でした。

それでは皆様、「SEE YOU ON JANUARY!」

（一）



ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧ください。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧ください。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

伝えたい人に、 伝える、伝わる。



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1~6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30~60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

✉ koukoku@agrinfo.co.jp

☎ 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞



家の光

漫画

「山奥ニート」
やっています。





12月号が 新連載開始!

高尾美穂の
らくヨガ



10分家活

10分あったら
やってみよう

このほか 毎月のお楽しみ記事が
ますます充実!

ぜひご購入ください



定価(税込)
●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円
●家計増付き12月号 1,027円

お申し込みはお近くのJAへ

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11

TEL 03-3286-9039 <http://www.ienohikari.net>



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA

青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし



全国旅行支援 1月以降も延長!

ひとり一人の感染防止対策で、安全・安心な旅を♪

出張に! 家族旅行に! お友達と! 冬の旅を楽しみませんか。
農協観光では全国の宿泊・交通付(JR・航空等)宿泊パックを取扱いしております。
是非、下記までお問い合わせください。

(メールでお問い合わせの方は右記QRコードからお問い合わせください)

※キャンペーン適用には、「ワクチン3回接種証明」または「PCR検査等の陰性証明」の提示が条件となります。



11月30日時点での情報です

12月27日まで
最大 **40% 割引!**
宿泊のみ(上限5,000円割引)
交通付パック旅行(上限8,000円割引)
さらに平日3,000円、休日1,000円
のクーポン券もございます。

1月以降は(開始日未定)
お一人様
最大 **20% 割引**
宿泊のみ(上限3,000円割引)
交通付パック旅行(上限5,000円割引)
さらに平日2,000円、休日1,000円
のクーポン券もございます。

お申込み・お問い合わせは



観光庁長官登録旅行業第939号
ふれあいコーディネーター。エヌ・ツアー。
株式会社農協観光 青森エリアセンター
☎017-729-8800 FAX 729-8803
〒030-0847 青森市東大野2-1-15 青森県農協会館1F
総合旅行業務取扱管理者 鈴木 光輝
営業時間: 平日9:00~17:30(土日・祝日休み)
当面の間、毎週水曜日もお休みとさせていただきます

株式会社農協観光代理業
青森県知事登録旅行業者代理業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433



作品介绍

●令和3年度 「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール (図画部門)



■優秀賞 (図画部門第三部)
「おにぎり弁当」

弘前市立第一中学校
3年 小林 摩 弥



■優秀賞 (図画部門第三部)

「伝統をつなぐ早乙女」

南部町立福地中学校
3年 久保 美 惺



■優秀賞 (図画部門第三部)

「私の好きな時間」

南部町立福地中学校
3年 島口 絢 花